

真生会富山病院を受診された患者の皆さま

当院は下記の研究を実施しています。この研究の対象者に該当する可能性のある方で、診療情報等を研究目的に利用または提供することを希望されない場合は、下記の問い合わせ先にお問い合わせ下さい。

研究課題名	糖尿病黄斑浮腫へのトリアムシロン硝子体注射による1か月後の眼圧上昇は、前房穿刺で抑えられるか
当院の研究責任者(所属)	植田 芳樹 (真生会富山病院 アイセンター)
他の研究機関および各施設の研究責任者	該当なし
本研究の目的	糖尿病黄斑浮腫の治療は、抗VEGF薬またはトリアムシロンの硝子体注射が通常行われます。トリアムシロンはステロイドの一種であり、価格は安く、効果も3か月持続しますが、白内障の進行、ステロイドレスポンダーと呼ばれる特異的な方の眼圧上昇、注射の液量が多いため一過性の眼圧上昇があること、などの欠点があります。当院では一過性の眼圧上昇を抑えるために、2022年から注射後に前房を穿刺して排液し、眼圧を下げています。前房穿刺による患者さんの負担はなく、長期的な眼圧上昇も抑えられる可能性があると考えます。トリアムシロンの硝子体注射を行った患者さんを前房穿刺の有無で分け、1か月後に眼圧上昇する人数に有意差があるかを検討します。もし前房穿刺がステロイドレスポンダーによる眼圧上昇に有用であれば、トリアムシロン硝子体注射の合併症を減らすことができ、糖尿病黄斑浮腫の患者の治療選択肢が広がります。
調査データの該当期間	研究実施期間: 承認日から2025年12月31日 調査データの該当期間: 2019年1月1日から2023年5月31日
研究の方法(対象となる方)	2019年1月から2023年2月までに、当院で糖尿病黄斑浮腫に対してトリアムシロンの初回注射を行った患者さんを、後ろ向きに検討します。
研究の方法(使用する情報)	患者背景として、年齢、性別、併存疾患、治療眼の左右、緑内障点眼薬の有無を調べます。また、注射前、注射後1か月の眼圧、3か月後の眼圧、点眼数、注射による合併症の有無、眼圧上昇時の治療の有無を調べます。
試料／情報の他機関への提供	該当なし
個人情報の取り扱い	使用する情報から氏名や住所等の対象者を直接特定できる個人情報は削除いたします。また、研究成果は学会等で発表を予定していますが、その際も対象者を特定できる個人情報は使用いたしません。
本研究の資金源(利益相反)	本研究に関連し、開示すべき利益相反はありません。
相談・問い合わせ・苦情	電話: 0766-52-6979(内線1927) 担当者: 植田 芳樹 (医師)
備考	